

図書館デザイン会議 第一回要点録

1. 多摩市立中央図書館における市民協働のありかたについて(図書館長 横倉)

投影資料:「多摩市立中央図書館における市民協働のありかたについて」参照

- ・中央図書館開館に伴い市民の方と企画実現していくなかで、多世代の市民が気軽に参加し楽しめる活動の仕組みが必要であるとわかった。
- ・多様な図書館との関わり方について整理し、情報発信を行うとともに、この図書館デザイン会議では「イベント企画運営ボランティア」について考えていきたい。
- ・全3回の図書館デザイン会議の中で、開館1周年記念イベント(令和6年7~8月予定)の企画を考え実行したい。
- ・継続的に事業を続けるために、令和6年9月に振り返り会議を行い、令和7年度の準備を行いたい。

2. 図書館の機能について(講師 岡本氏)

投影資料:「図書館の機能について」参照

- ・図書館は、建物ができて終了ではなく、そこから「始める」ものである。
- ・図書館は、知識を深める場所であると同時に、広場的で自由な場所としての要素が必要。
- ・中央図書館は、中高生など若い人の利用が多い。
学生時代に図書館を利用して居心地が良かったという経験は記憶となり、後にその街に戻ってきたいという思いに繋がる。
- ・図書館と公園は、「入場料を取らない」「どのような理由で居るか聞かれない」という部分で親和性があり、日比谷図書館をはじめ公園×図書館のパッケージが多くある。
- ・自分たちで町を作っていくためにはオープンガバメントが必要。(透明性・参加・連携)
- ・話し合いの中では、自らの言葉で話すことが大事。自分は本当に何がしたいのか?を考え、つたなくても自分の言葉で相手に伝えること。
- ・図書館デザイン会議の約束:「~してほしい」ではなく「~しよう」で伝えること
自分自身も一緒に行うという意味を見せることで、実現できることが増える。

3. 図書館で、自分がしたいことを考えよう(参加型ワークショップ)

「参加型ワークショップ発言まとめ」参照